

会 議 名 (審議会等名)	第8回川西市幼児教育問題審議会		
事 務 局 (担 当 課)	教育委員会教育振興部学校教育室学務課 (内線3381)		
開 催 日 時	平成21年10月6日(火) 午後4時00分～午後6時00分		
開 催 場 所	川西市役所2階 202会議室		
出 席 者	委 員	ト田真一郎、橋本祐子、林良明、森友潔、石村万寿美、柴田順子、穂積富美子、和田和代、下仲芳治	
	そ の 他		
	事 務 局	仲学校教育室長、仲岡教育振興部参事、尾辻学務課長補佐、廣田学務課主査、尾屋学務課主任	
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	10人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 議 事 (1) 諮問事項に係る審議について ・公立幼稚園の適正な運営のための活性化策について (2) その他		
会 議 結 果	審議中(審議経過のとおり)		

副会長	<p>こんにちは。本日は会長が欠席という事で、代わりに司会進行をさせていただきます。これからは、活性化について具体的にどの様に話し合っ、答申として出していくかということについて進めていきたいと思いますが、前回の最後に会長がまとめた幾つかの点がありました。1点目が3歳児保育、2点目が預かり保育、3点目が幼稚園と親との双方向でのメッセージのやりとりという事を含めた地域との連携、4点目が園児募集のあり方、5点目が幼稚園でありながら保育機能を持つという、幼稚園型の認定子ども園のような制度の捉え方、6点目が統廃合を含めた活性化、その6点を中心に本日は委員のご意見をいただいて、具体的な活性化として考えていくうえで、問題点がないだろうかという様なことについて、ご意見を出していただきたいと思います。本来であれば会長から何点かに関してより具体的な提案を行う予定でしたが、急遽欠席となりましたので、今回は委員の皆様よりご意見をいただくような形で進めたいと思います。</p>
委 員	<p>6点について、一つ一つ細かくまたお話をさせていただきたいと思いますが、まず大きく述べさせていただきます。本日の審議会にあたりまして、園長会を臨時に開いて協議しました。その中で公立幼稚園の良さというのは、今日が8回目ですので7回の中で色々とお話しさせていただきました。要約しますと、建学の精神を持たないことで10園全ての門戸が開かれているという点、低額の保育料で質の高い保育を提供していること、きめ細やかな保育、子ども一人ひとりに応じた指導、保護者一人ひとりに応じた対応、特別支援の子どもにおいてもコーディネーターを中心に個別指導を行っている点、公立小学校、中学校と一貫した教育、これは「川西の教育」にも載っていますので、市民の皆さんご存じだと思いますが、7中学校区と連携し合い故郷、地域と連携した教育を進めています。それと教師は研修、研究の機会を保障され、資質向上に努めています。7回審議をしてきた中で、同じ事、堂々巡りではないですが、大事なことを何度も繰り返している中で、公立幼稚園の活性化というのは、数の論理だけではない、質の論理だけでもない、何を大事にするか、子どもにとって何が一番大切かということは、他の委員からも出ていました。何を一番大事にするかという点で、昔と親の質も変わってきています。親が変わるということは子どもも変わっている。子どもが変わるということは親も変わる。その中で公立幼稚園としても今までしてきたことに誤りはなく、保育を進めてきたという自信を持っています。社会の状況も今、考える時期に来ているのではないかという中で、文科省も教育要領を改訂する中で、地域の実情それから保護者の要請により、教育課程に関わる教育時間の終了後に、希望するものを対象に行う教育活動について学校教育法第22条及び第23条等に基づき幼稚園教育の基本を踏まえ実施することとなっています。その事も踏まえて、保護者は3年保育を望んでいるということで、生の声も聞かせていただく場で申されるとと思いますが、実際に昨年度から3年保育を希望するという強い願いがあって、市長、教育長への要望を出され、実際に署名活動も去</p>

年に増して、今年度それ以上の枚数を揃えて出されていると思います。そういう実情も踏まえて園長会としては、これだけ長い時間を掛けて委員の方々に色々なお知恵をいただき、論議できた知恵を持って、3年保育、預かり保育について、園長会だけではなく教育委員会と共に検討委員会といいますか、何かそういう今後の活性化に向けての会を設けて、具体的に施策としてやっていけるようなことをする時期にきているのではないかという結論に達しました。前回会長がまとめられた6点について、皆さんのご意見を伺いながら園長会としての意見も申し上げて、今日の審議をより深めていければいいかなと思っています。

委員

今、委員が言われたことと同じになりますが、3年保育について前回申し上げましたが、何年来公立幼稚園として切に希望していて、実現に至らないのはどこが課題なのかというところも深く追求していきたいと思っています。今の経済的不安定な状況の中で、公立幼稚園の保護者の皆さん、経済的な面で安い保育料を望まれ、私学だけではなくて公立も3年保育を実施して、市民が選べる権利というのがどこにも保障されていないということで、非常に残念に思っています。ニーズはしっかりあるわけですから、実現に向けてしていただければと思います。預かり保育についても保護者のニーズはありますので、今の制度の中で克服しながらというのは非常に難しいものがありますので、少し制度を見直していただいて実施できればと思います。ただ、教育要覧に謳っているように、預かりだけという事ではなく、教育の一環として保育が終わってから子どもの姿を見ながら、教育の時間として子ども達に提供できればと考えています。

まだこの辺は園長会としてもきっちり制度を考えていきたいと思っています。そういう事も話し合いながら検討委員会もしていきたいと思っています。色んなところを精査しないといけないので、考えていく時期が来ていると思っています。特に公立幼稚園の良さの部分についても、市域に根ざしているということが一番大きいかなと、この地域だとあそこの幼稚園がある、川西市の教育方針の中にも15の春ということで、幼小中一貫して連携しあって子ども達を育てていき、15の春を迎えるときにそこに故郷がある、自分達が通った道がある、自分達が遊んだ公園があるというような、そういう幼稚園の役割を中学校区の中で果たしていかなければならない、そういう連携も教育長の指導の下に進めています。

それから、今子ども達の中で早寝早起きがてらに送って、運動なんかも前頭葉を刺激して子ども達と一緒になると、早寝早起き朝ご飯だけじゃなくて、運動も大事にして各園それぞれ保育を工夫しながら、運動遊びもしっかりとりあげ、運動のスキルだけではなく、運動することによって心身のバランスの良い成長を図っていきたいという思いでそういうこともとりあげ、質の高いものにしていきます。

それから、送り迎えは公立幼稚園は歩いて通園していますが、結構な距離を歩きます。子ども達の生活を見ていると、歩くということが非常に少ない。そういう中で大事に

<p>委員</p>	<p>していることで、歩くときに親子のふれあい、交通ルールを学びながら、地域の自然に触れながら温かいぬくもりの中で子どもを育てていく。公立幼稚園としては精一杯色々なことに努力し、質の良い保育を提供しています。</p> <p>一つ質問ですが、随分と質の高いであるとか、ここで公立の教育の良さをPRされていますが、それだけ低価格で質が高くて地域に密着してなぜ園児がこないんですかね。なぜ定員が充足しないのか。一つは教育の中にはキャパというのがあるって、それだけ地域に根ざした教育をやっているということであれば、親の支持があって、親はこの不況下の中でという話もでしたが、現実と今言われていることのギャップがあまりにもありすぎるのではないかという気がします。それともう一点は、3年保育、預かり保育の実施、良いことだと思いますが実際にニーズがある、人の話というのは一人二人聞いて、沢山こういう意見があるんですという言い方もありますので、実態として本当に3年保育、数的に率としてどれぐらいの方が、公立の3年保育実施を望んでおられるのかというのが伝わってきません。ただニーズがあります、その辺の噂と一緒に、井戸端会議の中で2、3名で話をしたら沢山の人がこういうことを言ってるんですというのが大体の話なんです。実際に3年保育のニーズというのはどのくらいあるのか、具体的に示していただくと理解しやすいんですが、今のところそういうものが見えてこない。</p> <p>私はこの前から疑問に思いつつあるのは、私学から2人でてますが、公立の活性化に私学が一所懸命になることはないんじゃないかと。段々とそういう思いが強くなってきてんです。公立の場合は、失礼な言い方かもしれませんが、親方日の丸、数の論理でもない、質の論理でもない、当然そうかもしれません。しかし質も数もあって始めて立派な質の高い教育が出来ると思っています。ところが公立の場合は数の論理をしなくてもいい、経営はやっていけると思っています。川西の16万の人口の中で、私立幼稚園、公立幼稚園、保育所も含めたら過密地帯なんです。そこで頑張っていく中で、我々私学がそこまで知恵をしぼって意見を申し上げて、公立の活性化に力を入れていかなければいけないのかなというのが、4回、5回、6回と終えていく中で、段々そういう気持ちになってきています。低価格で質の高い保育を実施しているのに、なぜ定員の充足率がこんなに低いのか、ここは公立はどう考えていますか。ここをクリアすれば活性化に繋がっていく一つの筋道も見えてくるんじゃないかと思いますが。</p>
<p>委員</p>	<p>委員の話聞いていますと、公立は全部出来ているということですよ。全部出来ているということは、活性化しているからこういう話はいらないんじゃないかと。残りは3年保育だけだという印象を受けますが、それは私の解釈だけかもしれませんが、色々議論が出ている中で、仮に私のところで数がぐっと減った場合に、なぜだろうと考えるのが最初です。職員の意見を聞いて、なぜこんなに人がこないのか、なぜ減っているのか、悪いところを修正して行って、やっと活性化に繋がるんです。あるいは親の要望はこうだと、自分のところはまだ出来ていなかったんで、なるほど保護者の仰るとおりだ</p>

委員	<p>から、こういうふうにはやっていかないといけないなという事を共通理解してやってるんです。そういうところがお話の中に見えなくて、例えば質の高い教育をやっておられるというふうに断言されましたが、質の高い教育とはどの様に捉えておられるのか。それと子どもにとって何が大事か、この2点を非常に重要に仰いました。これは公立の特権ではなくて、教育に携わる者は当然、質を高くしようと必死になってやっていますし、子どもにとって何が大事かと考えるのは、幼稚園教育にとって一番大事なことです。当然私学もやっています。これはいったいどの様にお考えなのか、公立と私学は違うのか。今のお話の中で少し解釈が違う部分がありまして、全て出来ていると言ったのではなくて、課題はある中で今後公立幼稚園として検討していくための検討委員会を立ち上げて、検討していきたいというふうに申し上げたつもりでした。活性化が出来ているからということではありません。ご質問についてですが、質を大事にしているというのは公立幼稚園だけではなく私立幼稚園もされていると思います。公立幼稚園としてはということで申し上げましたので、私学が悪いからという意味ではありません。質が高いというのは、職員、新任から中堅、教頭、園長に至るまでそれぞれの年齢別での研修等も行い、教育課程に基づいて日々保育についての研修も実施し、一人ひとりの子どもに応じた指導、それから公立幼稚園の良さである、毎日保護者が送り迎えをする中で一人ひとりの課題を持っておられる保護者に対する対応も出来ている。その対応が不十分であれば園長、教頭が補佐していくように、どの教員、どの担任も出来るように進めていく、これらが出来ているという事です。</p>
委員 委員	<p>いわゆる研修と保護者対応が中心ということですか。質の良さというのは。結局は子ども一人ひとりを大事に、研修が出来ているということは、子ども一人ひとり違いますので、その子に応じた保育を教育課程に基づいて、その中で育てていると。それに対するバックアップである、保護者との連携を図らないと出来ない面も多々ありますので、その辺も全て子ども、保護者それから地域の教育力も得ながら、ボランティアも沢山きていただいています。それを踏まえて出来ていると申し上げました。</p>
委員 委員	<p>研修は保育が中心の研修なんですか。 保育だけではなくて、地域の活力をどうしていくか、保護者対応をどうしていくか、子どもの保育に関わる全てのことに対する研修を進めています。一人ひとりについては個別の指導計画、指導記録をつけていますので、特に気になる子どもは全職員で、その子についてのそれぞれの場所等での対応をこのようにして欲しいという連携も、職員の連携、保護者の連携、全てを含めてであります。</p>
委員	<p>そこで今までやっていない研修をやる必要がないのかとか、今までやっていた研修は少しポイントが違うんじゃないかとかいうことは、お考えにはならないのですかね。</p>
委員	<p>必要がないものは削除してきていますし、今必要なことは増やしています。</p>
委員	<p>例えば預かり保育であったり、地域との連携であったりということで、恐らく私立幼稚</p>

園が持っている建学の精神に基づいて保育方針というのがあり、それぞれ特色のある保育内容があるというものと、公立幼稚園が持っている役割が若干違う部分があるのかなという印象を持っています。だとすれば地域ということを考えてときに、どのような地域との連携があり得るのかということと、またご意見をいただけたらと思いますが、例えば預かり保育を実施するということに関しても、その預かり保育を担当する人の中に、保護者であったり地域の人材であったりという方が、ボランティアのような形で入るということは、システム上の色々な問題、責任等の問題もあると思いますが、そういうふうな形で保護者が保育の中に具体的に参加してくる、地域の方が保育の中である部分ですが、園長の指導の下にということになるんでしょうが、参加してくるという形で地域の方も保護者も子どもを中心に活動するというような、また違った形での公立幼稚園の地域との関わりの特性を出していくことも一つかなと思います。そういう形になることによって、川西市の子どもを育てている保護者が、どのようなタイプの幼稚園に入園させるかという時に、私学の特色のある教育の中で選ぶのか、公立の中で自分自身も参加していくようなものを選ぶのか、選択肢の幅を広げることが一番必要なのかなと思います。私立幼稚園の教員が公立と同じ様なこと、逆に公立幼稚園の教員が私立のようなことを目指していくというよりも、それぞれが少しずつ違った役割があるということで、違う特色を出した方がいいのではないかと思います。そういう意味で、地域連携ということと預かり保育、幼稚園と親の双方向のメッセージのやりとりというようなこと、そういうものをある程度絡めて実施できないものかなと思います。具体的に川西でそういう事をされているのかもしれませんが、例えば保護者組織の方が、サークル活動的なことをされている方が、色々園の中で活動されて、保育内容に反映されていくであるとか、その保護者のサークルの中に託児を請け負うグループがあって、参観の時に下の子の託児をすとか、そういう形で園の教育に、ある程度保護者が協力をしていく体制であったりシステムであったりというのが、現状でどのぐらいそういう事をされているのかということをお聞きしたい。同じ様なことは地域の方にも言えますが、ということが出来るのかどうか。あるいは、保護者も共に育つということは、最近キーワードとして聞くと思いますが、保護者が保育に参加しながら子育てが学べる場だという形で、幼稚園を位置付けていくというような形の特色の出し方、地域との関わり方の一つなのかなと思います。地域に根ざしたという話になったときに、具体的にどう地域に根ざすのかという具体論を展開する必要があるのかなと思いますので、そのあたりで可能な範囲を検討していくのが活性化に繋がるかなと思いますし、現時点でされてることがあるのでしたら、教えていただければと思います。

委員

地域との連携についてですが、あまりよく分かっていないので、具体的にどういうことなのかお聞きしたいのと、今後どういうふうを考えておられるのかをお聞きしたいと思います。それと、5点目の認定子ども園のことですが、保育所の方も制度改革というこ

<p>委員</p>	<p>とで、厚労省の方が閣議決定しまして、9月から特別委員会で審議が始まっています。その中で11時間保育と6時間保育の方向が出されて、今、民主党の政権がそれを採用するかどうかはわからない状態ですが、そういう動きがある中で幼稚園の預かり保育というものはネックになってくるかなと思っています。そういうこともありながら、認定子ども園という方向ではなく、公立で預かり保育をしていただければいいのかなと。</p> <p>前回、保育所の懇話会で、川西市として公立であろうが私立であろうが、保育所であろうが幼稚園であろうが、一つの小学校に上がっていく同じ地域の子として、どういった保障が市として出来るかという話が保護者から提起されたという話をしましたが、そういうことを踏まえて懇話会でも意見交換をして、原案ができて、川西市のホームページでパブリックコメントを求める期間としてオープンになっています。その中で認定子ども園についても触れていますが、自民党が提起された認定子ども園の制度は、国が一定の目標値を掲げているにも関わらず、全く進んでいないというところに何らかの問題があるんだろうというのは、皆が一様に感じていて、一足飛びに国が提起している認定子ども園という話にはなかなかうんという返事は、保育所の懇話会でも言えないということになったんですが、実際に市を飛び越して県に申請できるという部分もあるので、そうなったときに、市として手を挙げた施設の方に対して、それは困りますとは言えないでしょうから、市としてどういう姿勢を示すのかというのは、きちんとしておかないといけないという方向性が出て、今後幼稚園に行政の関係機関同士でそこを話し合っ欲しいという方向で原案にも入っています。一つの打開策として、前回の審議会でも幼稚園一体型という提案をされたり、幼稚園型の認定子ども園という具体的な提案があったり、そこに行くにせよいかないにせよ、もう少し現場も勉強しないといけないし、利用者側に立ったときにその制度はどうなんだろうという検証も必要だし、制度ありきで進んでいくのは現場としては怖いので、もう少し調査研究を進めるというところで、担当課同士で調整していただいて、現場の意見、保護者の意見を聞けるような、それから地域や他市の状況を把握できるような機関を立ち上げて検討していくという方向はどうかかなと思っています。</p> <p>それと、前回、募集のあり方というのが、実際こういう状況におかれているということをお聞きして、民間園との兼ね合いというのがあるということをお聞きしました。ポスターを見たから申し込みが増えるわけではないですよという意見もありましたが、もう少し園独自のPRの仕方に工夫の余地がないのかなと思いました。公立保育所では代表者が出て、PR紙というか広報紙を年3回か4回ぐらい作って、公立保育所はこういうところですよという、保育の内容をお知らせするようにしています。そういうことも一つの方法かなと思います。</p> <p>委員 募集のあり方について、ポスターの作り方なんかでてました。保護者のニーズをどう受け止めるかということになれば、園の評価のあり方とか、それから預かり保育、例えば</p>
-----------	---

	<p>小学校で言えば夏休み中に補習授業をするとか、放課後残って授業をするとか、今言った3つについては、内容から言えばある程度、園長あるいは園長会の中で工夫が出来るレベルだと思います。工夫の仕方によっては、市教委と相談しながらやっていける部分もあるかなと思います。あとの3つについては、3年保育、認定子ども園、統廃合を含めた活性化、これは園長レベルではなかなか難しいなど。審議会に諮問されて、このあたりを動かそうとすれば、答申として出していかないと難しいと思います。当然政策的なことも絡んできますし、教育委員会だけではなくて議会や文教公企常任委員会にかけていかななくてはいけない、3点についてはそういうレベル、答申として出して動かしていくレベルだと思います。この会の審議の内容としては、ある程度絞っていかないと、そういった見方、捉え方をして、6つそれぞれについてやっていたら、なかなかまとまらないと思います。</p>
副会長	<p>色々のご意見を出していただき、ありがとうございました。委員が仰ったように園の工夫で出来るレベルのものと、そうではないもの、制度から動かさないといけないものということで、その違いを明確にした上で、答申としてどこまで出していくのかということを考えていかないといけないと。大変重要な意見を出していただいたと思います。お出しいただいた意見の中で、募集のあり方というところで、募集のあり方というよりもPR、広報のあり方というふうな大きな枠で捉えた方が良いのではないかと。募集のあり方について考えていくのであれば、広報という広い枠組みで考えていくべきなのかなと思いました。そして地域のことで、委員から質問がありましたが、地域の連携ということで進めていくのであれば、今どういう取り組みをされているのか、どういう工夫が出来るのかということについて、少しお聞きしたいというご意見がありました。これについてはどうでしょうか。</p>
委員	<p>地域にある幼稚園ということで、その地域で過ごしている子ども達の生活というものがあって、その地域で色々なことをされていることに参加していくことで自分達の地域の様子も分かり、もちろん子どもは小さいですから、保護者も一緒にそういうものに出ていきます。そういうところに興味を持たれるように、例えば地域の行事へ歩いて参加する、夏祭りとかコミュニティの運動会、あるいは文化祭では幼稚園はこういうことをしていますよということで、子ども達の作品を披露したり、長寿会なんかでは人との関わり、異年齢の関わりということでお年寄りとも関わり、またそういう施設にも出向かれて核家族化した子ども達にもおじいさん、おばあさんと接する機会があって、人との関わりもそういう中で生まれています。そういう人との関わりという部分では、子ども達のおかれていた環境では随分狭いものになっていますので、そういうところへ出かけていくことで、色んな年齢の人達との出会いがあり、隣に誰が住んでいるのか分からないような生活をしている方もいますので、そういうところで近所の人と出会ったりして、そういうところで人との出会いが保障されているなど感じています。また先生もそうい</p>

	<p>うところに出向いていくことで、どこそこの幼稚園の先生だなと地域の方に知っていたいたり、防犯の関係でも地域の方が声を掛けてくれるような関係を作っていきます。また地域の方は色々な力を持っていて、地域の人材活用というか、ハード面でも幼稚園は女性が多かったり、予算面でなかなか出来ないところも、大工をやったから材料さえ用意してくれたらやりますよとあって、色々なものを子ども達のために作ってくれたり、食育に繋がるということで作物を育てるのにも、農業体験のある方に指導していただき、子ども達と共に種から育てて収穫し、みんなでいただくという経験をしてみたり、あとは絵本の読み聞かせなんかでも、先生が読むのは当然ですが、ボランティアグループが活動されていて、そういう方にも読んでいただく。そういう体験をする。海外経験のある方が海外の様子を話したり、英語で挨拶してみたり、そういう地域が持っている力をフルに園の中に取り込む。また園から出向いて行って地域に幼稚園のことを知ってもらう。また学校評議員という中で地域で活躍されている方に園に来てもらって、園のしていることを見て評価してもらい、それを公表しながら園教育に活かして豊かな教育を行うような取り組みを行っています。</p>
副会長	<p>地域に関しては、今仰った地域での交流をされていると思いますが、前回は意見がでていたように幼稚園から保護者に働きかける連携ではなく、双方向に働きかけるということが、何とかシステム化できないかということが出ていたと思いますが、評価のことも出てきましたが、システムとして双方向に連携の働きかけが出来る取り組みに関しては、現在、あるいはこれからの可能性としていかがでしょうか。</p>
委 員	<p>その評価については10園どことも外部評価、自己評価等していますし、そのやり方は園によって様々ですが、私共の園でしたら自己評価は教師もしますが、保護者にもやっていただいて同じ子どもを教師から見た評価、保護者から見た評価というものをお互いが出し合って、学級懇談の子ども達の成長など、その事について一緒に話し合うという形で実施しています。</p> <p>それと地域との連携ですが、具体的に一つ言いますと、運動会が10月3日にありました。4日がコミュニティの運動会でした。3日が雨なら5日に延期されるんですが、2日の夜の時点で3日の朝の時点で5日以降も台風の影響で雨が予想される中、雨さえ上がれば3日にやりたいということで、2日から保護者や地域の方が園庭全面にシートを張ってくれました、ところが当日朝5時になっても雨が降ってしまして、7時頃から少し晴れ間も見えた中で、地域の方、保護者の方皆さん来て下さって、運動会されるんですかと声を掛けて下さって、実際にはシートをひいたおかげで1時間遅れでしたが無事実施できました。</p>
副会長	<p>それでは今まで出てきたご意見に対して、ご意見を伺いたいのですが、少し整理いたします。まず3年保育に関して、保護者からのニーズがどれくらいあるのかが明らかになっていないのではないかという意見。預かり保育については地域との連携の中で考えて</p>

	<p>はどうかという意見。そして先程出ました各園の努力次第で出来るレベルと制度自体を変えなければいけないレベルのものと、6点のうち答申としてどこまで出していくのかという意見がありました。それらを含めて今まで出た意見に対して、更にご意見があればお伺いしたいと思います。</p>
委員	<p>保護者のニーズの中で3歳児保育については、先程検討委員会を立ち上げて欲しいと申し上げましたが、その準備委員会のようなものは教諭、教頭、園長も踏まえて今している中で、昨年度、今の在園児5歳児、4歳児、それから未就園児交流もしていますので、幼稚園に交流に来られる保護者、ですからアバウトに3年程ですが、アンケートを実施しました。その中で地域によって差はありますが、7割から8割近くが3歳児保育を実施して欲しいという結果になりました。その意向をどうしていくかというのは、我々園長会だけで決められませんので、教育委員会と協議をしていきたいと思っています。特に定数のこともありますので。</p>
委員	<p>すいません、何の7割から8割ですか。</p>
委員	<p>公立在園児の保護者と未就園児で交流に来られた保護者です。</p>
副会長	<p>他にご質問や補足意見はありませんか。</p>
委員	<p>保護者の保育への参加というのは前回から話が出ていましたが、実際にどれくらいのことを、例えばサークル活動というレベルもあれば、地域の教育課題は何なのかということをお話し合う機会は、恐らく中学校区レベルの範囲になるのかもしれませんが、あるかもしれないと思います。そういう広い意味から具体的な道を保育までという事で、それぞれの園でどのような保護者の参画であったり、参加であったりということが実際に行われているのか、または検討されているのかということをお聞きしたいのと、もう一点、その点についてはどのあたりまでそれぞれの園長、各幼稚園の判断で実施できるものなのかお伺いしたいのですが。</p>
委員	<p>今参画していただいているのは、制度を変えなくても出来る、ボランティア、お金のかからない範囲で出来ることについて実施しています。在園の保護者もおられますし、OBの保護者もおられますし、園にご縁がなかった方も地域、コミュニティの出会いの中で来ていただいています。</p>
委員	<p>例えばですが、保護者が園に対して相談というのはあると思いますが、こういうことを園で実施して欲しいであったり、地域の方が幼稚園に対してこういうことが地域の課題だからやって欲しいというようなことを話し合う場はあるのでしょうか。</p>
委員	<p>どの園も保護者会がありますので、定例で月1回会合があります。その中で就学当初の年間行事予定、園の予定を全て説明し、行事の詳細についてはその月々で話し合っています。また行事を実施した後はその都度アンケートを実施して、園だより、クラスだより、園長だより等でお返ししています。</p>
副会長	<p>3歳児保育や認定子ども園に関しては園だけでは取り組めないもので、例えばプロジェク</p>

<p>委員</p>	<p>トを立ち上げるとか、他の部署も巻き込んでといったことになってくると思います。そういうレベルのものも答申として出していくのかも問題となってくるでしょうし、これから会を進めていく中で、問題点やご意見等ありませんでしょうか。</p> <p>話を聞いていますと、公立の入園前説明会を聞いているような気がしてなりません。あれもしてます、これもしてます、それは当然それで良いんです。それが当然のことなんです。ここで言う活性化というのが、教育委員会も公立幼稚園の方も含めて活性化についてという前に、活性していないのかどうか。活性化するには一体どうしたらいいのか。3歳児をすれば活性化に繋がるというのであればそれでもいいんです。預かり保育、この2点、これさえやれば、行政と協力して3歳児保育と預かり保育をやれば公立の活性化が出来るんだというのか。その中で質の高いとか云々を言っている話では前に進まないと思います。それで十分であれば活性化されてないといけないんです。それでなおかつ、こういう表現が良いのかどうか分かりませんが、活性化について審議してくださいということは、教育委員会も今公立幼稚園は沈没寸前だという考えを持っておられるのか。その辺をもう少ししっかりと述べていただかないと、我々私学の方からこうすれば活性化に繋がるんじゃないですかというのは、過去7回で出尽くしてますから、逆に公立の方は園長会を開いて今日の発表内容を吟味されたんだと思いますが、実際にこうすれば公立幼稚園は活性化するんだというご意見をお聞きしたいです。それが今まで出た中に含まれているのかもしれませんが、だらだらと長くするのではなくて、これだというものはないのでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>先程委員が仰ったことは、方向付けとしては整理する必要があると思います。特にここで3歳児保育となったとしてもここだけでは決められない。どのあたりのレベルまで答申を出すのかということについての方向性は出す必要があるでしょうし、そのためには委員会の設置を要求しないとイケないものもある。ただこの中で話し合っ出来るものもあるだろうと。現在6点の課題が出ているものはグリーゾーンのものもあると思いますが、制度設計が必要なものも、やりようによっては工夫次第で出来るものもあると思うので、ある程度見えている部分があると思いますので、仕分けする部分とここで出来ないことに関してはどのレベルまで答申として可能なのかということを検討するのも必要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>3年保育とかそういうことではなくて、今の2年保育の現状をどうすれば活性化できるのか。活性化できているから3年保育を導入するのであれば分かります。現状で活性化する討議がなされないで単に3年保育を実施すると、仮に活性化していないとして、活性化するには今の状況でどう活性化していくのかということを考えて上で、じゃあこういうふうになれば活性化できた、それから3年保育を取り入れようということであれば分かります。3年保育の子どもが来れば数が増えるんだというだけで、その活性化だけではポイントが大きくずれていると思います。公立の方からはその辺が出てこないんで</p>

	<p>すね。出てこないで意見の言いようがないと。今、十分活性化されている、で3年保育を入れれば更に活性化するというのと、今、問題点がたくさんあるから、これとこれとこれを修正していきましょう、そして3年保育をしましょうというのでは、全く違ってきますから。</p> <p>それと地域の話が出ましたが、小学校でも同じ様な形ですか。</p>
委員	<p>ゲストティーチャーを招いての教育だったり、教育だけではなくてトイレ掃除なんかもしてくれています。</p>
委員	<p>学習指導要領の中でどの様に位置付けるかということですよね。地域の方がどんどん入ってきてやる。</p>
委員	<p>もちろん教育課程の中でも、教師がその方に任せるとかそういうことではなくて、学校の責任として授業をしますので、その方達の教育力を活用する、その方の力で授業を進めるのではなくて、力を借りて子ども達の興味を高めるとか、基本的にはそのように進めていくべきことだと思います。</p>
委員	<p>たくさん入っておられるんですか。</p>
委員	<p>私の学校では、延べ人数で言えば100人は超えると思います。</p> <p>お聞きしますが、4日の日曜日に東谷幼稚園の運動会を見に行ったんですが、特にリズム運動ですが、当然それぞれ年齢が違いますので発達も違うんですが、その1年の保育を受けているか受けていないかで、明らかに子ども達の成長が違っているのが見受けられます。もちろん個人差はありますが。集団の中で体形を組んだときの前後の感覚であるとか左右の幅、円を作ったときの自分の位置であるとか。集団でないとなかなか育たない部分は明らかに差が分かります。私立の方で、3歳児保育をされることによる教育効果、成果をどの様に受け止めておられるのか、お聞かせいただけませんか。</p>
委員	<p>すいません、ちょっとよく分からないんですが、私がお聞きしたのは、色んな地域の方が中に入ってそれが可能なんですかね。沢山の人が外部からそこへ入ってきて。公立の方のお話を聞いていると、これも外部から、これも外部からということなんです。人選とかそういうことはどうなってるんでしょうか。</p>
委員	<p>学校として必要であるかどうかは当然判断しています。</p>
委員	<p>それでやはり取捨選択されると。</p>
委員	<p>各学年の中で協議してもらって、これはお願いしようというような選択をしていく。申し入れを受けた中で全部の方に入っていたのは、学校としても収拾がつかなくなりますので。</p>
委員	<p>ありがとうございました。それで、ご質問があった件ですが、子ども達は3歳、4歳、5歳と明らかに違います。3年保育の3歳の研究というのは、すぐく力を入れないといけないし、それに携わる教職員に指導しないといけません。一番難しいです3歳が。ですから、園としてきちんとしたもの、発達段階がこうなっています、だからこうです。</p>

	<p>はじめはこのような子どもが何人います、おしめのとれない子が何人います、それに対する対応はこうしました。こういうことを全部まとめて全員のそういったものをきちんと把握させます。それによって、単に出来ていないから叱るのではなく、子ども達一人ひとりを見つめていかなければいけない。あるいは、それを少しずつゆとりを持って、愛情を込めて成長させないといけない。その過程があつて3歳、4歳、5歳と段階的に、年長の時にこうなるには3歳でどうすればよいか、どういう教材を使えばよいか、どういう精神的な対応をすればよいか、こういうことはきちんとまとめています。ただ言えることは、3年保育の3歳というのとは一番難しいです。一番教職員が努力しなければならない。簡単に3年保育を入れればよいという発想ではとてもおいつかない、ただ預かっているだけということになってしまいがちになります。少しご質問とは外れていますが。</p>
	<p>私がお聞きしたかったのは、地域の活性化というのは果たしてそういうものかどうか。いろんな人が入って来たら、余計に混乱します。地域の人がこういう特性を持っているんだと行って入って来られたら、園側の教育に支障が出る場合もあります。単に教育してもらったという事だけにこだわると、いけないと思います。私は地域の参加というのは人間関係とか言葉とかいう項目が、少子化の時代で、いわゆる教育危機の時代で子ども達は衰えています。ですからそれを中心に据えて、地域の人と手を握ってもらう、これはいいと思います。色々な人と話をする、こういうことが先にあつて、行事に単に参加して子どもに見せるだけでは、これは活性化にならないと思います。やはり新しい教育要領を踏まえて、改善点として人間関係、言葉、これに地域の人に協力してもらったり、保護者に協力してもらうことが大切で、昔ながらの、この行事にはこの人、これには地域の偉い人がきて座ってもらう、こういうことでは教育の本質的なことは出てこないのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>特に委員の意見に対してどうこうということではありませんが、地域の教育力を取り入れているという解釈が違ふように捉えているのかなと思ひまして、この行事にはこの人に来てもらう、地域の偉い人が座ってるだけということではなくて、対人間関係においてより子ども達が豊かになるために色々な人との関わりを大事にしているので、ただ絵本を読むだけではなくて、園から出たときに「また来てね」という会話が地域の中で生まれますし、登園時に「行ってらっしゃい」という声を掛けてもらえる。保育の中で教師の協力という形で参加していただいているということです。</p>
<p>委員</p>	<p>私は一番大事だと考えるのは、親と幼稚園。親も地域の方ですから、親が一番の地域だと思っています。ですからその方の意見をたくさん聞いて、改善しなければいけないと思っています。やはり色々なところから入ってきますから、親は実際に地域で生活していますから、その中で色々な話を聞けるはずで、子どもと会話できるはずですから。</p>
<p>副会長</p>	<p>色々なご意見ありがとうございます。地域との連携ということで、具体的にどういうこ</p>

	<p>とができるのか。どういうふうに地域の連携を考えるのかをもう少し具体的に、委員の中からまず公立幼稚園としてはどういう意向で、どういうことを優先的にしてきたのかということを出していただきたいというご意見もありましたが、やはり地域についての意見も多かったので、それに対して具体的なアイデアを次回に向けて更に具体的に出していただくというのも、一つではないかと思えます。地域の中に預かり保育を含めるといった意見もありました。そういった可能性も含めて、地域との連携を川西の公立幼稚園では活性化に繋げるうえで、どのように、今までの形を踏襲するだけではなく、新たなアイデアとしてどういうことが必要なのかを出していただくのも一つかなと。</p>
<p>委員</p>	<p>先程委員が仰った、地域というのは親だと、親との対話を大事にしなくてはというのは、例えば、日本の事情に合うかどうかは当然ありますが、欧米では教師と保護者が対等な関係にあって、同じテーブルで子ども達の教育課題について話し合っ、保育内容や教育内容を決めていくということを行っています。それをやってくださいという提案ではなくて、当然そこには親に対して幼児期の育ちについての理解や指導、親に対する情報提供ということも必要ですが、地域といったときに一緒に話し合う場を作りましょうというのが一番突っ込んだ形ではないかと思うんです。果たしてそこまでやるのか、それとも地域の人材に来てもらう、保護者に入ってもらおうというのは、現状のレベルでやるのか、もっとシステム化した形で積極的な参加をしてもらうのか、その場合はシステム作りが必要ですが。どのレベルで地域との関わりをもっていこうとするのかを公立幼稚園としてどうお考えなのか、そこを考えていく必要があると思えます。地域というと抽象的な部分がありますので、地域というのはそもそも何であって、例えば中学校区の地域教育協議会という形で行われているものもあると思えますので、どういう水準でどうい話し合いをしていくのか、どこまで親の参画を求めていくのかというレベルの問題として捉えればいいのかと思えます。逆に参画のレベルが上がってくると、色々な人が入ってきて混乱するというご意見もありましたので、当然そういうことが起こる可能性はありますので、きっちりとしたシステムであったりということもいるかと思えます。それによって検討するレベルが変わってくるのかなと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>ですから、かなり漠然としてるんです、地域というのは。やはり人間関係というのは少なくなってきましたので、子どもがそれによってしゃべれないとか、色々な影響があると思えます。私は、地域としてはっきりと幼稚園と家庭生活の間に連続性を持たせて、家庭から園生活、園生活から家庭という両方向の流れを見つめ直すことによって、家庭の教育力の活性化を進めていくと。そういうことが一番大事じゃないかと思えます。そういう過程で、先程出てきました子育て支援などの問題も出てくると思えます。どうしても親は孤立しがちになります、今の社会においては一般の家庭では共稼ぎしないとなかなかやっていけない家庭が多いので、それがまた預かり保育に繋がっていきませんが、幼稚園と地域を先に出すというか、自然な流れの中で地域が入ってくるとすれば、幼稚</p>

	園と親との連続性が肝要で、それが地域の活性化に繋がってくると。幼稚園の活性化というと、地域が入ってくるということに繋がるのではないかと思います。あまり大きなテーマで話をすると、地域というと漠然としていますので、まとまらないのではないかと思います。
委員	地域の要望ということで、3歳児保育とか預かり保育というのは出てきて、一番最初のテーマとして、公立幼稚園の中でどう活性化するかという話だったと思うんです。地域の要望というか、保護者の意見を聞くというようなことを言われてましたが、それはどうなりましたか。
事務局	保護者からの3歳児保育等要望について、審議会の中で話をお聞きするというものでした。現在、日程調整をしているところですので、決まり次第ご案内いたします。また現地視察という話もありましたので、これについても日程調整を行っています。併せてご案内いたします。
副会長	地域というのは大きすぎて、まずは保護者との連携というところから始めることが大事だというお話がありました。新しく幼稚園教育要領が変わりまして、家庭との連携というのが単なる幼稚園から保護者への働きかけとかではなく、保護者に幼稚園教育を理解してもらい、共に理解していくという視点で書かれています。一つの例として保育参加という言葉も出てきています。実際に、保護者が保育参観ではなくて、保育に参加して子ども達に関わる、そして子ども達が幼稚園でどういう生活、教育をしているのかを実際に体験してもらい、そういう取り組みをしている幼稚園は各地にあります。出版物も出ていますが、その後に幼稚園と理解を深めるために、集まりを持つというように取り組まれているところもあるので、それは一つの例ですが、具体的にどういう形で保護者との連携、園作りに参画してもらおうかということが、具体的というよりもコンセプトがはっきりとすればいいのではないかと思います。
委員	保育所の方も保育指針の関係があって、地域の子育て支援が大きな役割として指針の中に位置付けられました。そういったときの地域は、かなり広い意味での地域として捉えないといけないと思います。特に保育所の場合は同じ民間でも認可という部分で幼稚園とは事情が違いますが、市の財産としての認可保育所、認可施設という部分で、もちろんそこを利用している保護者に還元する、そこからまた何かをもらうという双方向は当然ないといけません。それ以上にそこから得たもの、知識をもっと広いところに返さないといけないという役割があると受け止めています。先程出ていた、公立幼稚園、私立幼稚園の役割というところで、全く同じものでなくてもいいのではないかとと言われて、公立の特性という部分で、公的保育とかそういうことだけではなくて、市の財産として地域に還元する何かという部分、市の財産としての価値ということを考えていくことによって、一つの特性となってくるのかなと思いました。
副会長	地域といっても保護者という具体的な保護者との関わりと、それよりも広い地域との関

	わりがあると思います。
委員	基本だとは思いますが。そこにいて通っていますから。子どもなり保護者、そこから更に広げたものが求められるのではないかと。
副会長	公立幼稚園であるからこそ、そこまで視野に入れて地域との連携を考える必要があるだろうということですね。
委員	預かり保育はなぜ実施しないんですか。お金がないんですか。先生もしないし委員会も費用がいるからしない。委員がはじめに仰った、ボランティアで地域の人にと、なかにはおられます、年配の方で子どもが好きで色々やっておられる方は。ただそこには責任問題も入ってきたり、お金の問題が入ってきました。良いご意見だなと思って聞いてはいましたが、果たしてそれに踏み切れるかは疑問です。公立幼稚園で預かり保育をした場合に、どれだけの方がそれを利用されるかという問題もあります。仮に6時まで預かってくれるのなら働きに出ようかと、それが活性化に繋がるんでしょうかね。教材研究で忙しいと園は言うし、人を雇うとお金もいるし、利用される保護者からお金をとったとしても、人を雇うほどのお金を取れないだろうし。川西市としては預かり保育はされていないということですね。
事務局	現在、預かり保育はしていません。
委員	前回の時に、他市でも実施しているところが多くなっているという情報をいただいています。具体的な実施方法や内容などをまとめたものはありますか。
副会長	そうですね、少し他市の情報を調べてみます。
事務局	参考までに申し上げますと、20年度の調査ですが、県内29市のうち13市が何らかの形で実施されています。ただし、阪神間で実施しているところはありません。
委員	今、委員が仰ったデータの話で、約半数弱が実施しているということは、兵庫県が預かり保育を数年前から推進しているんです。是非やって欲しいと。それに対する補助金、公立は出ているか知りませんが、私学の場合は、預かり人数等の積算方式によって出しています。2時間以上預かった場合に補助金が出ます。
委員	形態は色々ですね。人を雇っているところや、職員でやっているところもありますし。うちでもやっていますが、意見としてよく出たのは、預かり保育は家庭に帰る。うちの場合はホームクラスといますが、子ども達が家庭に帰ってくるんだという意識を持ってやっています。ですから保育をどうするかは関係ないんです、家と一緒に。あまり保育としてああしよう、こうしようとは絶対に言わないようにと言っています。お帰りといって先生が温かく抱きしめてあげる、そういう家庭的な預かり保育を職員には指導しています。そこでまたもう一度保育をしてしまうと子どもも大変ですから。
副会長	色々なご意見の中で、公立幼稚園だからこそ地域に根ざしている、地域との連携とは具体的にどう進めていくのか、その議論の中に預かり保育ということも出てきました。やはり審議会としては、預かり保育に関して、意見をまとめて答申の一つの柱にしていく

委員	<p>ということが考えられると思います。それに際して色々と問題点等が出てくると思いますので、それをどの様な形でまとめていくのが、次回の審議になるかと思っています。</p> <p>そういう関わりによって家庭の教育力の活性化、そんなまとめが出来ないかなと思っています。地域が関わることによる家庭の教育力の活性化。もちろん幼稚園の先生も入っていますが。例えば私立幼稚園では相談員というのがたくさんいますので、色々な相談、どの先生でもいいからやりなさいということをやっています。色々ありますが、中には経済的なこともあるし、姑さんのこともあるし、子育てに悩んでいることもあるし、教師に色々なことを話しかけて、大抵はそうですかと聞いているだけですが、そういった悩みも打ち明けていただいて自分達ができること、私達ができることはやっていったり、どうしたらいいのかと一緒に考えるということが、家庭内の悩みや思いがありますから活性化に繋がっていくんじゃないかと思っています。幼稚園が最初の地域の窓口ではないかと考えています。</p>
委員	<p>公立幼稚園にしても家庭がまず最初というのはもちろんベースです。家庭を中心に地域が広がっていくのは当然のことだと考えていますし、決して地域を幅広くという考え方ではありません。保護者との関係はまず第一、委員が仰ることは当然だと思っています。しかし公立幼稚園として地域にも出向いていき、地域のことも知っていくということも役目かなと思っています。地域から人を呼ぶときも、人選は園長が責任を持ってしますし、保護者との関わりもしっかりと定期的にしながら、教育相談もしていますので、歩いて幼稚園に行くわけですから、その都度相談にのりながら保護者対応しています。</p>
委員	<p>公立の方がやっていないとか、そういうことではないんです。こういうふうにやっていますというのをお話しただけですから。</p>
副会長	<p>活性化に繋がるということですから、新たな取り組みといいますか、システム作りをしていくにあたって、どういったことが必要なのかをここで議論しないといけないでしょうし、やはり家庭との連携、地域への広がりということで、活性化に繋がる取り組みとして何が必要なのかということですね。そういったことを中心として、次回の審議に繋がっていきたいと思います。まだ他の点でも議論が尽くされていないと思いますが、今回は預かり保育を含めた地域との連携ということで、どのようなシステム作りが出来るのかとか、どういう新たな取り組みが、活性化に繋がる取り組みが出来るのかということで、またその反面、どういう問題点があるのかというところから審議をしていけばどうかと思います。</p>
委員	<p>冒頭に申し上げましたように、活性化については3年保育と預かり保育ということを私学の委員から7回の審議の中でも言っていたように、3年保育をされたらどうか、預かり保育もされたらどうかという意見もお聞きしている中で、そういうことでこの審議会の中で、具体策を教育委員会と園長会で考えていく検討委員会、そういうものを立ち上げて、話していくというのがいいのではないかとすることを答申として出してい</p>

	<p>ただければありがたいと。最終まとめで預かり保育だけになっているもので、3年保育の話が消えているなど。それと募集のあり方について、公立、私立共に幼児教育が活性化するように、募集の件についてもたまたま今年度から市の方針で発行日が月一回になりましたので、9月1日に公立幼稚園の募集について出ましたが、私学もそういう形で広報紙に載せるのも一つの案ではないかと思えます。</p>
副会長	<p>今日は意見が地域と預かり保育に集中していましたので、それをまとめた形になりました。公立幼稚園の意向としては3歳児保育のことももう少し審議する必要があると。広報に関しては、あり方をもう少し検討する必要があるという意見もありましたが、やはり地域、預かりも含めた地域と3歳児というところを中心に議論していきたいと思えます。</p>
事務局	<p>6項目について、会長から提案していただいて、それを中心に議論していただき、また、中間答申をいただいた内容を踏まえて、幼稚園の活性化の方向性を出していただけたらと思えます。3歳児保育や預かり保育やこども園的なものとか、幼児数が減少しており地域間で差が出ている中で、統廃合を含め、統廃合はマイナスイメージではなくてそれをステップに活性化するといった意見もいただいています。それらを含めてご審議いただければと思えます。それと預かり保育や3歳児保育などに関しまして、また別の組織で検討するというのではなく、基本的にはこの審議会の中で方向性を出していただければと考えています。</p>
副会長	<p>本日は、色々と意見を出していただきありがとうございました。次回6点を中心に審議していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。</p>

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。